

【22_078/技術系メルマガ】安定のトレードは『一定のリズム』で作れる

〇〇さん

こんにちは！クロガキ(クロ)です。

昨日は珍しく2発トレードをしました。

～～

①EURAUD(S) 結果:31.1 pips

<https://twitter.com/fxrealtradelive/status/1504691950297174016?s=20&t=ZIUm-woBXbp oi2hoBTsClg>

②GBPUSD(S) 結果:1回目建値、2回目20pips

<1回目>

<https://twitter.com/fxrealtradelive/status/1504740250757009408?s=20&t=ZIUm-woBXbp oi2hoBTsClg>

<2回目>

<https://twitter.com/fxrealtradelive/status/1504769473362145280?s=20&t=ZIUm-woBXbp oi2hoBTsClg>

いずれのトレードも、見てもらうと分かると思いますが

エントリーを決めるためのセットアップを考える際、僕が取っている基本動作は

『MAの収縮』+『③波目発生』の組み合わせをひたすら狙うのみです。

昨日実施した両者のトレードも、それ以前からチョコチョコ出していたトレードも

基本はすべて同じやり方で一貫しています。嘘だあ(笑)と思ったら是非さかのぼってみてくださいね。

～～

3月3週目も終わった今日時点でのパフォーマンスは

8勝6分、利回り31.7% でした。今月は目標月利40%にいけるかな?(笑)

ちょっと勝ちに偏りすぎてる感ありますが、その辺は建値撤退のリスクヘッジに

助けられている側面も大きいですね。

こうなると、極端に負けを忌避して、『型』と違う動作をしないように気を付けないといけません。

改めて、気を引き締めていきたいと思います。

┌
└─┬─ 『リズム』を守ってトレードする事で、『型の再現性』を高める

常々、僕は自分で決めた『型』に沿って『一貫性のあるトレード』を行うことが大事だとお伝えしています。

ですが、実際の行動を『一貫』させると意識をしたところで、最初はなかなかうまくできないものです。

そこで登場するのが、『型』と呼んでいる エントリーのためのセットアップ です。

▼エントリーを決める短期セットアップ(クロの場合)▼

<https://twitter.com/fxrealtradelive/status/1504347820060459008?s=20&t=ZIUm-woBXbp oi2hoBTsClg>

このイメージ図と対比しながら、僕が実際にやったトレードのTLをたどって見て欲しいのですが

僕はまさに、このイメージの『まんま』を意識してトレードしています。

もはや、①波を探すのは反射でやっているレベルだと思います。

①波と認識(想定)する波を見つけた時点で、そのセットアップの方向に目線を決め

上位の時間足にお伺いを立て(主に、邪魔なライン・MAが無いかをチェック)て目線方向にトレードするのが問題ないかを確認する。

その状況次第で、エントリーの可否・監視するかどうかを判断しています。

最初は勿論、あらゆる動作を『意識的』に行うので、もたついてしまうだろうし考えることが多くて疲れてしまうため、リズムを意識する余裕は無いでしょう。

しかし、検証母数が増え、同じ型でのフォワードテストを2~3カ月も続けると意識せずともできることが勝手に増えるので、脳に掛かる負担が減りリズムカルに分析を行うことができるようになります(「慣れ」ともいいますね)。

常に自分の中でのセットアップ・分析の手順を整えて、その段取りに沿ったトレードをするように気を付けていると

そのリズムが脳と身体に焼き付いてきて、一連の動作をリズムカルに行えるようになります。

これは、スポーツの初心者が、練習とともに動き方になじんでいくのと似ています。

トレードもその感覚とシンクロさせることができれば

「メンタルコントロール」だとか「複雑なチャートリーディング」に依存すること無く

いつも同じような『一貫した動作』を再現できます。

僕は、トレードの収支を安定させるために一番大事な要素の一つとして

『いつも一貫した判断・動作』を行うことを挙げています。

本当に一貫した動作ができている人にはその人の所作に『リズム』が見えるのです。

要は、作業そのものを完全にルーティン化しているので、本人の中では負担感なく

いつも同じことを淡々と繰り返しているだけの状態が出来上がっているということです。

これを読んでくれた皆さんも

僕の提示している方法論はあくまで、たくさんある中の一つと考え

自分なりの『一貫性』と『リズム』を見つけていってほしいと思います。